

[国 語]

「書きたい」という思いを持続させ、書く力を高めるための指導の在り方

— 交流活動と自己評価カードを取り入れた新聞作りを通して —

江村 泰子*

1 研究の意図

小学校国語科「書くこと」においては、相手や目的に応じ、調べたことが分かるように段落相互の関係などを工夫して文章を書くことが求められている。しかし、自校の3年生児童の実態をみると、「文を考えるのが大変」「何を書いているのか書いているうちに分からなくなる」と書くことに対して苦手意識をもっていたり、書く材料を集めても、結果的に何を伝えたいのか分からない文章になっていたたりすることがあり、書くことを楽しむまでには至っていない児童が多い。これは、つまづいている児童に適切な手立てが取れなかったり、相手や目的に合わせた材料の取捨選択や文章構成を考えさせたりする指導が十分でなかったことが原因であると考えられる。私は、児童が「書きたい」という強い気持ちを持ち、書くことに没頭する姿を願う。

学習指導要領において全教科の「言語活動の充実」が求められている。言語活動は、国語科のみならず各教科において行うものであるが、その中核的な役割から特に国語科で扱う言語活動は、大きな役割を担っている。自ら学び課題解決していくために、ねらいを明確にした単元を貫く言語活動を位置づけ、その充実を図っていく必要がある。

学習活動を「単元」というまとまりでとらえることは、指導者にとっても児童にとっても単元学習のゴールで「目指す児童像」「なりたい自分像」をより明確にすることができる。また、そうすることで児童の実態に即して学習活動を工夫し、児童自身が主体的に活動できる場を作ることができる。以上のことから考えると、書く力を育てる改善の視点として「単元構成の工夫」が大切だと考える。

国語科の学習指導要領では、学習過程の明確化が図られ、「書くこと」の領域において書いたものを交流する指導事項が示されている。第3学年及び第4学年では、推敲して書き終えた文章だけでなく、書くことの学習過程においても交流の工夫をすることを示し、書く能力を高める交流が意図されている。徳永(2010)は、「相手が読んで理解しやすい表現にしていくためには、自己評価や相互評価を位置づけ、読み手の立場から文章を客観的に評価することが大切である」¹⁾と述べている。

児童一人一人が「書きたい」という強い気持ちを持ち、楽しんで書く姿を目指し、研究に取り組むことにした。

2 研究の目的

- ・書く意欲を持続させるために、児童にも学習のゴールを意識させた単元構成が有効であるか。
- ・書く学習過程に児童が相互に交流し合う場面を設定することで、個々の書く力の向上と意欲の持続につながるか。

3 「書きたい」という思いを持続させる授業の構想

(1) 「単元を貫く言語活動」を位置付けた授業構想(手立て1)

国語科において、言語活動は児童自らが学び、課題を解決していく過程として重要であり、単元を貫いた言語活動を設定することの重要性が指摘されている。児童の学習意欲を持続させ、常に単元のゴールの言語活動を意識しながら学習できるようにさせるために、「単元を貫く言語活動」を位置付けた単元構想をする。そのために、付けたい力から学習課題を設定し、その解決に向けて、課題解決的な学習となるように単元を設定する。常にゴールの言語活動を意識させながら単元を展開できるようにすることで、学習意欲の持続につながり、主体的に学習に取り組めると考える。(図1)

* 津南町立津南小学校

(2) 学習過程における意図的な交流活動の設定 (手立て2)

学習指導要領の「書くこと」の指導事項に明記されている項目を見ると、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」と指導事項が一連の単元の学習の流れになっている。これは、児童が課題意識をもって書き続けるという思考の流れに沿った構成になっていることが分かる。この単元の流れの中に、交流活動を設定する。学習指導要領解説には、中学年で「推敲して書き終えた文章だけでなく、学習計画や、取材、構成の段階のメモなど書くことの学習過程についても発表し合うように工夫する。」²⁾とある。これは、作文の作成過程の中で積極的に他者と交流させるといふものである。書く過程において友達と交流することは、文章に対する評価を確実にするとともに感想を伝え合うことで書く過程を振り返り、他の指導事項の理解を確かなものにつなげる。交流の方法としてKJ法やペアやグループで付箋紙を使った意見交換など多様な方法を取り入れ、思考が深まるようにする。(図2)

(3) 児童の書く力を高めるための新聞作り (手立て3)

学習指導要領の第3学年及び第4学年の「書くこと」の言語活動例で「疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること」³⁾とあり、言語活動として新聞が示された。新聞は、主に出来事や意見を伝える文章で構成されており、実生活で生きてはたらし、各教科の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることができる。

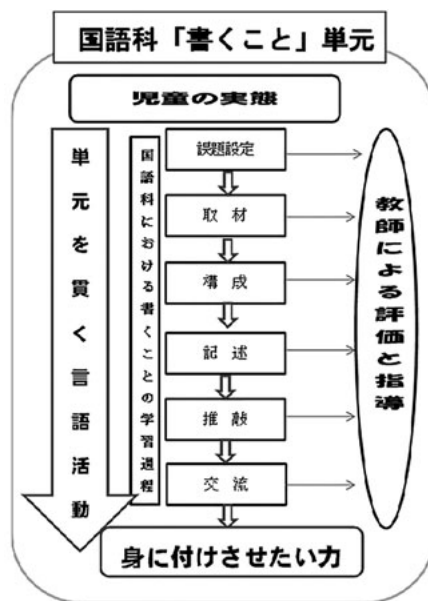
新聞を作る言語活動における児童の書く力を高めるための有効性について、坂本 (2013) の論文を参考にし次のように考えた。

- ① 学習過程全体を通して課題設定や取材、構成、記述、推敲、交流に関する指導事項を指導することができ、中学年の段階で児童の書く能力を総合的に高めることができる。
- ② 課題設定や取材では、児童は、読み手である相手の興味・関心を引くような内容を考えたり、構成や記述、推敲でも相手に分かりやすく伝える書き方を考えたりするなど単元全体を貫いて相手意識を重視した学習ができる。
- ③ 習得した知識や技術を総合的に生かして、相手や目的に応じた書き方を工夫する学習活動ができる。⁴⁾

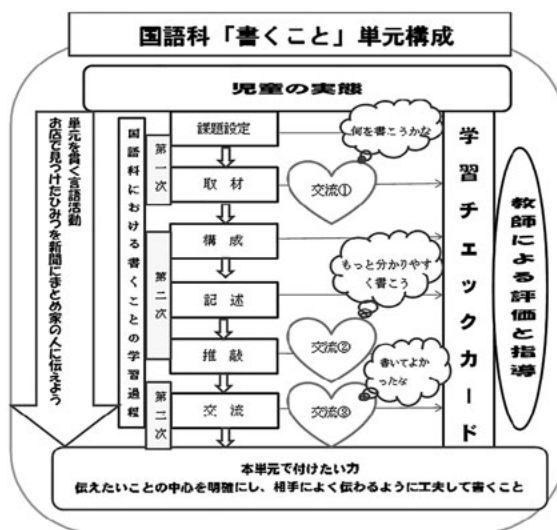
つまり、新聞作りは、学習過程全体を通して課題解決をしながら児童の書く力を高めることができるように課題設定や取材、構成、記述、交流に関する指導が可能である。これは指導要領に示されている指導事項と合致する。

(4) 主体的な学びを喚起する自己評価 (手立て4)

学習指導要領総則には、指導計画の作成に当たり、言語活動の充実を図る指導上の留意点について、「各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。」⁵⁾が明記されている。つまり、単元全体を通して、学習者が課題解決に向かって何をすべきか、課題解決にどう結び付くのかを自覚的に意識できる手立てを打つことが重要だということである。このことを受け、児童が学習の見通しを持つ手立てとして、自己評価カード (以下「学習チェックカード」図3) を作成し、活用する。学習チェックカードは、学習過程と毎時間のねらいに沿って作成する。一時間一時間の学びの振り返りを行うことで、自分自身の学びを自覚し、さらに付けたい力が明確になり、学習することへの意欲へつながると考えた。



【図1 書く単元における学習過程】



【図2 交流活動を生かした単元構成】

4 実践から

これまで述べてきた「書きたい」という意欲を持続させるために、第3学年国語科「見てきたことを新聞にまとめよう」(学校図書 上)を教材として取り上げ、社会科と関連させながら指導を行うことにした。小学校3年生21名(男子13名・女子8名)を対象に実践を行った。

(1) 単元名 「お店のひみつ発見! 見てきたことをつたえよう！」

(2) 教材名 「見てきたことを新聞にまとめよう」(学校図書 上)

(3) 単元の目標

- ・お店で見つけた「買ってもらうための工夫」から記事にすることを決め、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができる。

(4) 単元について

① 「単元を貫く言語活動」を位置付けた単元構想

教材文は、工場を見学して、見学したことをもとに中心をはっきりさせて新聞を書くという単元である。

単元で目指す児童像を「伝えたいことの中心を明確にし、相手によく伝わるように工夫して書くことができる子」とした。国語科で習得した基礎的・基本的な技能を活用できるように、社会科見学と関連させ学習を進める単元を構想し、「家の人も知らないスーパーマーケットのひみつ(お客さんを集めるための工夫)を調べ、新聞で伝えよう」という単元を貫く言語活動を設定した。児童は、家の人(相手)にお店で見つけたひみつを新聞で伝える(単元のゴール)ことを目的に学習を進めていく。

② 相手のよさを見つけて互いに学び合う交流について

書くのが苦手な児童は、「何を書いたらよいか分からない」「自分の伝えたいことが相手に伝わっているのか心配」「表記上の間違いを自分で見つけることができない」などの悩みを抱えている。そこで、交流活動を「自分の考えを整理し、構築していく題材選定の過程(交流活動①)」と「自分の考えを見直し、よりよい表現に推敲していく過程(交流活動②)」,そして、「できあがった新聞をお互いに読み合う交流の過程(交流活動③)」に設定した。(図2)

交流活動①では、取材した内容を友達と整理する中で、伝えたい事柄を取捨選択し、明確にしていく姿を期待した。また、交流活動②では、友達と考えを交流することで、読み手を意識してよりよい考えや表現になるように見直したり、確かめたりすることができる考えた。単元の学習過程「取材したいことの明確化→取材→資料の整理→①交流活動→割り付け→記事作成→②交流活動→推敲→清書→③交流活動」を意識した指導をすることで、今後の新聞づくりの基礎となる力をしっかりと身に付けさせたい。また、相手のよさを認めつつ、よりよい表現を共に考え、お互いに高め合える児童の姿を目指す。

(5) 授業の実際と考察

① 交流活動①について

ア 学習活動

見つけた記事を新聞にする時に、何を書いたらいいのか自分で決めたり、見出しを考えたりすることが苦手な児童がいるという実態から、交流活動の手立てとして、5月に「広げようまとめよう」で学習したKJ法を用いた。KJ法は、資料の分類・整理、そして、そこから意見をまとめていく効果的な手法である。班での交流活動を通して、買ってもらうためのお店の工夫や家の人の買い物の工夫について自分の考えを深めたり、広げたりすることにつながると考えた。

イ 考察

4人グループで、お店で見つけたひみつを書いた付箋を出し合い、仲間分けをさせた。付箋を使って交流を行うことにより、自分の意見を伝える助けになり、友達の考えと比較・分類したりする姿が見られた。意欲的に話し合

お店で見つけたひみつを新聞にまとめ家の人に伝えよう

		名前		
学習計画		学習の進め方	チェックリスト	◎○△
課題設定	1	日	新聞の形式を知り、書き方の工夫を発見する。	
	2	日	学習の流れ(新聞の作り方)が分かる。	
取材	社	日	見学に行ったり見たり、聞いたりしたことをメモにとる。	
交流	3	日	見学で発見したひみつを班で発表し、協力して分類する。一見つけた工夫をまとめ、名前をつける。	
構成	4	日	新聞に書く内容をきめ、記事のレイアウトを考える。	
記述	5	日	1番伝えたいひみつを伝えるための下書きを書く。	
	6	日	2番目に伝えたいことを考え、下書きを書く。	
	7	日	分かったことと感想を区別して書く。	
		日	記事の見出しの工夫・効果的な絵や写真を決める。	
		日	「作文のワザ」チェックリストにそって見直しをする。	
交流	8	日	班で新聞を読み合う。 ・友だちの新聞のよい表現をさがして伝える。 ・友だちの新聞へアドバイスをする。	
推敲	9	日	もらったアドバイスを生かしながらきれいな文字で清書をする。	
交流	10	日	友だちの新聞のよいところや表現の工夫したところを付せん紙に書いて伝える。 日 家の人に読んでもらい、感想を聞く。	

<学習を振り返って>

【図3 単元で使用した学習チェックカード】



【図4 交流活動①の様子】

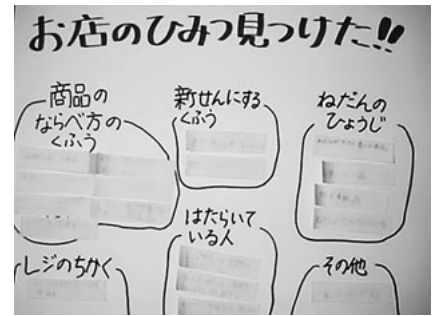
A: じゃあ、話し合いを始めます。
 B: さんから。どれからでもいいよ。
 C: お店の人は全員マスクをしていた。わけは、
 ~中略~
 D: 魚が氷の中に入っていました。魚が悪くならないように工夫していると思います。
 B: 野菜のコーナーから霧が出ていたけど、野菜を新鮮なまま買ってもらう工夫ってお店の人は言ってたよ。
 A: 新鮮にする工夫・・・にする?
 C: いいんじゃない。
 D: 同じ品物でもいろんな種類がありました。同じ牛乳でも種類がいっぱいあるのは、お客さんの好きなのが違うからだと思います。
 B: あ〜。ドレッシングも、いろんな種類があった・・・
 C: 同じドレッシングでも味が違うもんね。
 ~後略~

【図5 交流活動①の会話の様子】

い、お客さんに買ってもらうための工夫をまとめていた。(図4)

最初のうちは、見つけた工夫を話し合うだけだったが、KJ法で交流を進めていく中で、徐々に「商品の並べ方の工夫」「サービスの工夫」「表示の工夫」など、見出しを付けて分類しながら発表をするようになった。(図5・図6)

付箋で仲間分けの操作をすることで見つけたひみつを視覚的に整理することができた。表1の授業者から見た評価によるとA B評価が16人と76%を示した。取材した内容を整理し、見出しを付け、教室に掲示することで、記事を書く内容を選択する時や記事の見出しを付ける時の手助けとなった。



【図6 KJ法で整理・分類したお店の工夫】

表1 授業者から見た評価と児童自身の評価

1次 1/3時間 ねらい	チェックリストによる教師の見取り			評価方法	検証結果 (A Bの合計)	児童自身 の評価
	A十分満足できる	B概ね満足できる	Cやや努力が必要			
○見学で発見したひみつを班の中で発表し、班で協力して分類し、見出しを付けることができる。	友達の書いた付箋紙について、分からないことを尋ねたり、同じ内容の付箋紙を重ねて貼ったり積極的に話し合いをリードしている。	付箋紙に書いたことが、なぜ売するための工夫なのか理由を付けて発表している。	教師や友達の助けを借りながら、付箋に書いたことを発表している。	・付箋 ・学習計画シート・観察 ・授業記録	16人 (76%)	◎13人 ○8人 △0人
	4人 (19%)	12人 (57%)	5人 (24%)			

② 交流活動②について

ア 学習活動

下書きを書き終えた段階で班での交流を取り入れる。ここでは、書き表し方のよいところをピンクの付箋に書いて認め合ったり、訂正した方がいいところを青い付箋に書いてアドバイスし合ったりする。友達に読んでもらい、表記上の間違いがないか、自分の記事が読む人に分かりやすい記事になっているか、伝えたいことの内容がずれてないかなどを確認させる。より伝わる表現や分かりにくい所を教え合い、書き直していく中で、自分の感じたことや考えたことを相手に分かりやすく表現する力を高めたと考えた。

イ 考察

交流の手立てとして、1次の学習活動で見つけた新聞の形式や特長をもとに作成した「新聞を書く技」(図7)からチェック表(図8)を作成した。班で、新聞のレイアウトや題字の大きさや書き方、記事の内容や分量、絵などの推敲をさせた。

交流活動を通して、記事作成時には気

が付かなかった誤字や脱字を指摘される姿もあり、清書の際には書き直していた。(図9・図10) 児童からは、交流したことで友達の表現の工夫に気が付き、友達の考えや新たな表現の仕方が分かったという声が聞かれた。

表2より、話し合いを通じて分かりやすい記事に直せた児童が20人いた。文の基本的な書き方や直し方を丁寧に示し、お互いに確認し合うことで、ほとんどの児童が自分で分かりやすい記事に直すことができた。



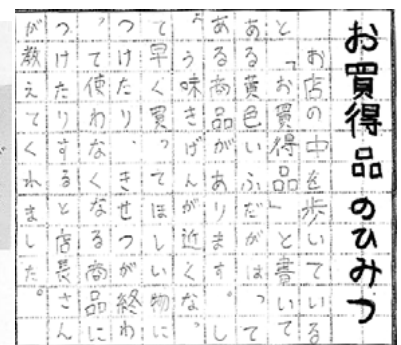
【図7 1次で学んだ新聞作りの技】



【図8 「新聞を書く技」チェック表】



【図9 交流活動②で友達が貼った付箋】



【図10 交流後に直した原稿】

表2 授業者から見た評価と児童自身の評価

2次 8/10時間 ねらい	チェックリストによる教師の見取り			評価方法	検証結果 ABの合計	付箋	児童自身の 評価
	A十分満足できる	B概ね満足できる	Cやや努力が必要				
「新聞を書く技」チェック リストをもとに、新聞の下 書きを読み合い、よりよい 表現になるように助言する ことができる。	付箋に書くことに加 えて、よりよい表現 になるように友達へ アドバイスをしてい る。	・友達の新聞の工夫し た点を見つけピンクの 付箋に書いている。 ・直したほうが良い所 やアドバイスを水色の 付箋に書いている。	チェックリストをも とに、友達の新聞の よさを見付けること ができるように助言 する。	・付箋 ・観察 ・学習計画 シート	20人 (95%)	ピンク	◎14人 ○7人 △0人
	6人 (29%)	14人 (67%)	1人 (5%)				水色

③ 交流活動③について

ア 学習活動

できあがった新聞を友達と読み合い、表現のよいところや工夫している点について付箋に書いて伝え合う。自分の書いた新聞が友達に認められ、書いてよかったという満足感が得られるような時間にしたいと考えた。

イ 考察

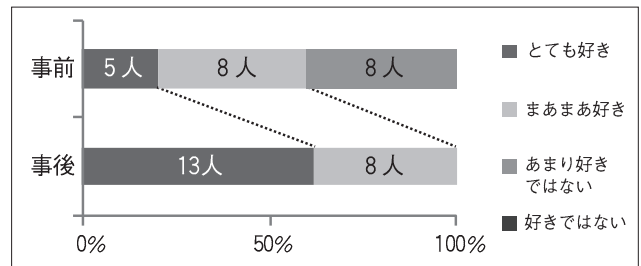
班の友達との交流では、交流②で教えてもらったアドバイスをもとにどこを直したのかを伝え、前の記事との比べ読みをした。足りない記事を付け足したり、教えてもらった誤字や脱字を訂正したりし、新聞がより分かりやすくなったことを実感することができた。さらに、別の班の友達と交流し、「私は見つけることのできなかつた工夫が書いてあった。」「バックヤードの記事が読んでいておもしろかった。」など、自分の新聞の良さを認めてもらい、うれしそうにしている児童の姿があった。その後の家の人からのコメントには、「○○の新聞に書いてあったように、『お買い得品』と『おすすめ品』の札があったよ。買い物の時、参考にさせてもらうね。」「バックヤードを見学させてもらってよかったですね。お店の人が衛生に気を付けて、魚をさばいていることがよく分かりました。」などと書かれていた。家の人にもお店の工夫を知らせることができ、満足している様子が伺えた。

④ アンケートの結果から

単元終了後、「書くことについて」「交流学習について」「新聞作りでどんな力がついたか」について、アンケートを実施した。(図12) 事前に「書くことが好き」と答えた児童は、13人と約半数だったが、新聞作りを終えてからは、ほぼ全員が「好き」と答えている。書くことが苦手だった児童も、家の人に「買ってもらうためのお店の工夫を家の人に教えたい」という目的意識や相手意識を常にもって学習を進めることができた。また、学習計画チェックカードにより毎時間学習したことを振り返って自己評価をしたり、次の学習へ見通しを立てたりすることができた。そのことが「書くことが好き」につながったと考える。さらに、交流学習について行った「友達に新聞のよかったところを伝えたり、もっとよい表現になるようにアドバイスをしたりすることができましたか」については、12人が「よくできた」で、8人が「まあまあできた」、1人が「あまりできなかった」と答えた。交流活動の時間を十分とったことや「新聞を書く技チェック表」を使ったことで評価の観点が明確になり、アドバイスを伝えやすかったのだと考える。「あまりできなかった」と答えた児童も、アドバイスはできなかったが、友達の新聞のよい点を見つけ、ピンクの付箋を貼ることはできていた。「交流活動をすることによって新聞がよくなったか」については、21人全員が「とてもよくなった」「よくなった」と答えた。交流活動が新聞作りに有効だったことがよく分かる。交流活動で、自分の書いた新聞を褒めてもらったり、よりよい表現になるようにアドバイスをもらったりと、書いた文章がどんどん読み手に伝わりやすい表現になっていくことを体験することができ、意欲や自信につながった。



【図11 できあがった新聞】



【図12 児童アンケート 書くことは好きか】

図13は、「新聞作りでどんな力がつきたか」（複数解答可）についてアンケートをとった結果である。「間違いがないか見直しをすること」20人、丁寧に清書をする事19人、メモに書いたことを読み手に分かりやすい記事にすること18人と、常に相手意識を持続させて新聞作りを進めていたことがよく分かる。ここで付いた力は、その後の国語科のインタビュー新聞や総合学習のパンフレット作りにも生かされた。

書くことに苦手意識を持っていたA夫は、単元を終えての感想欄に次のように書いている。

間違いがないか見直しをすること	20
メモをとること	19
丁寧に清書をする事	19
メモに書いたことを記事にすること	18
割り付けを決めること	17
記事の大切なところを目立たせるようにすること	16
相手のことを考えながら下書きを書くこと	16
記事に合う絵や写真を入れること	15
記事の見出しを決めること	14
伝えることの本質を選ぶこと	10
字数に合うように記事を考えること	8

【図13 新聞作りでどんな力がつきたか】

新聞作りは、楽しかった。いつもは、何を書いたらいいのかまようけど、交流でお店の工夫を話し合った中から書くことを見付けることができた。友達から、字のまちがいを教えてもらったり、文に合う絵を書くといいと教えてもらったりして、うれしかった。家の人にも、魚のコーナーの工夫を教えてあげたらよろこんでいた。また、新聞作りをやってみよう。

A夫のこのような変容は、新聞作りを核にした単元構成と新聞作りの過程で行った交流活動が書くことへの意欲付けと意欲の持続、書き終えたことへの満足感とつながっていったからだと考える。

6 研究のまとめと今後の課題

本実践を通して、児童が、単元のゴール、つまり単元を貫く言語活動の最終的な姿について描くことができ、単元の学習をどのように進めていけばよいのか、また、どんな言葉の力を身に付ければよいのかについて見通しをもつことで、学習活動に期待を膨らませることができていることが分かった。児童の変容の姿からもお店の工夫を見付けようという社会科と関連付けた活動体験も相手意識をもって書く意欲を高め、相手に伝えるための生き生きとした表現につながることが分かる。また、友達と交流しながら書くことが活動の振り返りや物事をさらによく見つめることになり、その後の国語科のインタビュー新聞や総合学習でのパンフレットに生かされたことも一つの成果と言える。

自分の思いや考えだけでなく、相手意識をもたせながら書くことに取り組ませていく新聞作りは、児童の書く力を高めることにつながる。新聞作りの過程で、多様かつ膨大な情報を焦点化して整理する点、情報を関連付けたり必要な情報とそうでない情報を児童自身が選択できたりする点で、KJ法による交流活動は有効であった。また、推敲の過程での交流活動に、「学習チェックカード」や「新聞を書く技」カードを使ったが、書くときに参考にしたポイントがそのまま交流する際の観点となったため、書くことの理解がさらに深まり、自分の考えを確かめたり、深めたりして意欲をもって学習することへとつながった。さらに、新聞を作るという言語活動を通して、児童は相手や目的に応じて工夫して書く能力を高め、各教科等の書く活動に生かすことができた。

今回の実践では、振り返りの際、◎○△式で「学習チェックカード」に自己評価をさせたが、評価が曖昧な児童もいた。毎回、評価に沿って記述式で振り返りを行うことで学習したことがしっかりと理解できているか教師も把握することができた。児童にとっても教師にとっても生かす評価の在り方を今後、さらに探っていきたい。

【引用文献】

- 1) 徳永加代 「書く力がぐんぐん伸びる！『言葉のワザ』活用ワーク」, 明治図書, 2010 P.75
- 2) 文部科学省 「小学校学習指導要領解説」国語編, 平成20年8月, P.59~60
- 3) 文部科学省 「小学校指導要領」平成20年8月, P.22
- 4) 坂本 謙 宮城県教育研修センター 研究成果報告書, 2013
- 5) 文部科学省 「小学校学習指導要領 総則編」, 平成20年8月, P.7

【参考文献】

- 喜多二郎 「発想法 創造性開発のために」, 中公新書, 1967
- 水戸部修治 「小学校国語科 授業&評価パーフェクトガイド」, 明治図書, 2013
- 水戸部修治 「『単元を貫く言語活動』を位置づけた国語科学習指導案パーフェクトガイド3・4年」, 明治図書, 2014